

地域のみなさまへのご案内

人工関節手術をテーマに健康講座を開催します 「どうなの？人工関節手術。安心して受けてください！」

第212回健康講座は、前回に引き続き当院整形外科の人工関節学会認定医・岸村裕一医師が担当。人工関節手術についてわかりやすく解説いたします。ご興味をお持ちの方はぜひご参加ください。

講師：大阪鉄道病院整形外科 人工関節学会認定医 岸村裕一
開催日：令和6年11月14日(木)
開催時間：14時～15時
会場：当院3階講堂
参加費：無料
定員：50名(予約不要)



※急な開催内容の変更などがございましたら、病院HPでお知らせいたします。

お知らせ

LINE 公式アカウントをはじめました

病院からさまざまな情報をタイムリーにお届けしますので、よろしければぜひお友達登録をお願いいたします。



“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1丁目2-22
TEL.06-6628-2221 (代表) FAX.06-6628-2287 (代表)
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ <https://www.jrosakahosp.jp>



受付時間/午前8時30分～午前11時00分 診療開始/午前9時00分～
休日/土日祝・年末年始(12月30日～1月3日)

ぽっぽぽ

メディカル
よりよい医療の始発駅

volume
27
2024.10

「診療科 UPDATE」
呼吸器内科
ドクターインタビュー
部長 玉垣 学也
Message
医長 西田 浩平

- リハビリコラム
- 転倒予防について
- 看護部より
- 4階病棟のご紹介
- Radiation Station
- ピンクリボン月間
- ぽっぽぽニュース
- ご報告
- 防火・防災訓練
- ご案内
- 第212回健康講座
- お知らせ
- LINE公式アカウント

JR 大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

地域医療へのさらなる貢献を目指して 幅広い呼吸器疾患に対し先進の医療を提供

今年4月、玉垣学也医師の部長就任により新体制がスタートした呼吸器内科。他院で豊富な経験を重ねたのち、2015年より大阪鉄道病院で前任の藤井部長のもと当院呼吸器内科を支えてきた玉垣新部長。その意欲あふれる挑戦に、早くも各方面から高い評価をいただいています。

ドクターインタビュー

部長 玉垣 学也 (たまがき かくや)

専門分野/呼吸器全般
資格/日本内科学会認定総合内科専門医・指導医、日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医、日本アレルギー学会認定アレルギー専門医、ICD 認定

—新体制を築かれる上で意識されたのはどんな点ですか

ご紹介いただいた患者さんを可能な限り受け入れるということです。阿倍野地区をはじめとする近隣地区の内科、呼吸器科のクリニックの先生方がお困りになったときに、できうる限り力になるのが私たちの役割ととらえ、現実的に100%は難しくとも、極力お断りしないようにこれまで以上に努力し、応需率を上げてきました。常勤医5名非常勤2名の体制を維持したままの、限られたマンパワーゆえにスタッフは大変ですが、みんな本当ががんばってくれています。こうして地域の先生方からのご紹介に丁寧にお応えして、適切な検査、診療を実践することが、先生方、ひいては患者さんからの信頼につながります。それが私たちができる地域医療への貢献のかたちであると感じ、この態勢を続けていきたいと思っています。

—呼吸器内科はコロナ禍での対応においてもたいへん頼りになる存在でした

あのときは大変でした……と、過去形で語ればよいのですが、感染は未だに続いていますし、地域の先生方からご紹介いただく患者さんも少なくありません。軽症の人が増えているとはいえ、重症化のリスクも依然としてあるのです。特に高齢の方や基礎疾患がある方は、いったん回復しても免疫力が低下しているので他の病気にかかったり、肺炎を起こしたりする傾向があります。呼吸器内科としても、まだ気の抜けない状況ととらえ、ご紹介を受けた患者さんの治療に全力で取り組んでいます。



2023 年度診療実績

外来患者数	44.2 人/日
入院患者数	24.0 人/日
平均在院日数	12.1 日

主な検査・治療実績

【入院患者疾病統計】

肺の悪性腫瘍	287
肺炎等	79
間質性肺炎	59
その他の感染症（真菌を除く）	33
睡眠時無呼吸症候群	32
慢性閉塞性肺疾患	26
誤嚥性肺炎	19
喘息	17
肺・縦隔の感染・腫瘍形成	12
胸水・胸膜の疾患（その他）	12
その他	87

【検査件数の推移】

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
気管支鏡検査	116	121	117
睡眠時無呼吸検査	20	63	50
CT ガイド下肺生検	10	15	23

(件数)



—まさに来たる者は拒まずで、幅広い疾患に対応されているんですね

そうですね。代表的なものを挙げれば慢性閉塞性肺疾患、気胸、気管支喘息、間質性肺疾患、呼吸器感染症、そして肺がんなどがありますが、急性期領域の呼吸器の病気は、いずれも積極的に受け入れています。

—地域を支える病院の呼吸器内科として、唯一無二の存在になりつつあるのではないのでしょうか

そうなれると嬉しいと思っています。また、どんな疾患もまず受け入れるということをポリシーとしてきたおかげで経験値が上がり、さらに対応力が高まるというよい循環もあります。たとえば「間質性肺疾患」は急激に増悪することがあるため、実は非常に対応が困難な疾患です。昨年、人気演歌歌手が急にお亡くなりになったニュースは記憶に新しいと思いますが、彼女も膠原病の合併症で間質性肺炎を発症し、重篤化して残念な結果となってしまいました。このような疾患の合併症のほか、たばこ、カビや羽毛のアレルギーなど原因も多種多様で見極めが難しいのが間質性肺炎です。まず丁寧に診て原因を特定し、それに対する治療を進めていく必要があります。当院は大阪公立大学附属病院との連携体制のもとで必要に応じて特殊な気管支鏡検査を依頼するなど、状態を把握した上で正確な診断を行い、より適切な治療を進めるようにしています。これも積み重ねたノウハウあってのことと自負しています。

—玉垣先生自身のご専門についてお聞かせください

前述のとおり当院では呼吸器疾患を幅広く診ることを基本としていますが、私はずっと喘息と COPD を研究していて、アレルギーの専門医でもあります。実は私自身、もともと喘息持ちなので、患者さんとの共感性も高いんですよ。近年では難治性の喘息の治療にも取り組み、一定の成果を上げています（コラム参照）。ほかにも、地域の呼吸器内科医のなかでも、まだ浸透しきっていないと思えるコアな情報が多々ありますので、広くお伝えしていくのも私の使命ととらえています。喘息と COPD、間質性肺疾患に関しては、地域の先生方に向けて最新の治療についてお話しする講演会などで啓発活動にも力を入れています。（P4 に続く）

難治性喘息の治療について

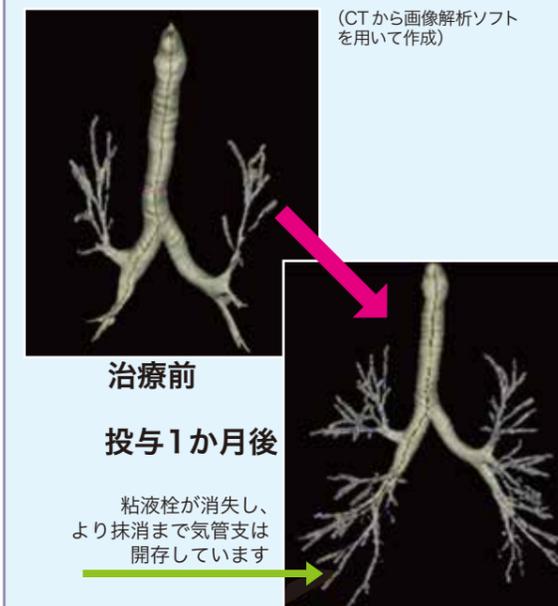
喘息は空気の通り道の気道が、炎症を起こして狭くなる病気です。1990年代に登場した「吸入ステロイド薬」によってこの炎症を抑えることができるようになり、今では適切に薬を使えば、ほとんどの患者さんが喘息をコントロールできるといわれています。

しかし薬を正しく使い、自己管理もしっかり行っているのにコントロールができない、いわゆる難治性喘息の患者さんも7%ほどいらっしゃいます。そういう方を対象に当院で行っているのが、生物学的製剤による治療です。高用量のステロイド薬や複数の薬剤を使うなど高いレベルの治療を施しても、症状が安定しない患者さんが対象の薬です。

治療は、事前の検査で喘息のタイプを見極め、喘息の原因となる原因物質を狙い撃ちする薬を注射で投与します。これが功を奏すると、症状が驚くほど改善し、QOL が著しく向上します。「心配なくお風呂に入れるようになった」「歌えるようになった」「旅行に行けるようになった」など喜びの声を多く頂戴し、なかには90歳を超える高齢の患者さんから感動をお伝えいただいたこともあります。

残念ながら事前検査の結果、適用できないという可能性もありますが、これまで改善せずあきらめていた患者さんのひとつの選択肢として、ぜひお考えください。

当院にて生物学的製剤で治療を行った重症喘息患者さん 気管支モデル



治療前

投与1か月後

粘液栓が消失し、より抹消まで気管支は開存しています

※紹介した症例は臨床症例の一部を紹介してもので、全ての症例が同様な結果を示すわけではありません。

(インタビューつづき)

部長 玉垣 学也

—また、大阪鉄道病院呼吸器内科では、肺がんへの対応でも信頼を集めていますね

肺がんの患者さんは年々増加傾向にありますが、当院は呼吸器外科、放射線科と連携した集学的治療、さらには緩和ケアと、診断から患者さんの心身の苦痛をやわらげる局面まで手厚くフォローできる体制が整っていますので、安心して治療を受けていただけます。呼吸器内科での治療は外科的治療や放射線治療といった局所治療が不可能なⅢ期以上の進行肺がんの患者さんが対象となります。しかし、進歩の著しい肺がん治療のなかでも、薬物による全身治療は、驚くほどのスピードで進化を続けています。薬剤師や看護師と連携しつつ、多くの選択肢のなかから的確な治療を選択し、よりよい治療効果につなげることが可能です。

—肺がん診療における、当院ならではの長所をお聞かせください

最適な治療を受けていただくためには、検査によって詳細な診断を下すことが重要な要素となります。現在では100種以上の遺伝子を解析してがん細胞に特異的な遺伝子の異常を見つける「がん遺伝子パネル検査」を実施し、治療に反映する技術もめざましく向上しています。当科では昨年新たに最新の気管支鏡システムを導入したことで、より正確に検体を採取し網羅的に遺伝子異常を検査することが可能になりました。ナビゲーションシステムも導入されており、検査前に得た画像をもとに効率よく腫瘍に到達して必要な検体をスムーズに採取できるので、検査時間も短縮され、患者さんへの負担も最小限で済んでいます。治療も同様で、可能な限り患者さんの苦痛を低減しながら、寛解に導く、あるいは長くよい状態を維持していけるよう、最新の医療技術と豊富な経験を活かしています。

—呼吸器内科の雰囲気もよいと、評判です

スタッフ全員がマイルドでやさしいんですよ。私が一番厳しいくらい(笑)。患者さんからも「話しやすい」「安心してなんでも話してしまう」と言われるほどで、そう思うだけなのありがたいです。リラックスして診療を受けていただけるのも、大きな魅力



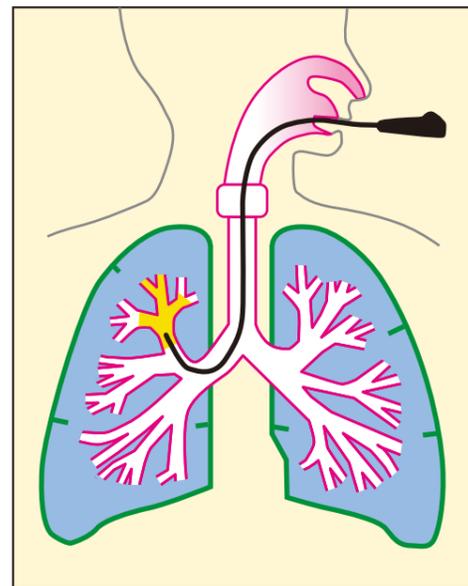
超音波内視鏡

気管支鏡 (提供: オリンパス株式会社)



エコープローブ

局所麻酔下の気管支鏡検査



ではないかと思っています。治療はハードに、対応はソフトに。今後もスタッフ一同心を合わせて、あらゆる意味で信頼にお応えできる呼吸器内科を目指してまいります。より多くの方に知っていただけたら嬉しいです。



カンファレンス

Message

誰に対しても、おだやかに接すること

医長 西田 浩平 (にしだ こうへい)

専門分野/呼吸器全般

資格/日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本呼吸器学会認定呼吸器専門医・指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医、大阪府難病指定医



呼吸器は呼吸が苦しい、酸素がうまく取り込めないなど、症状が出やすい臓器であり、実にたくさんの疾患が存在します。特に当院ではどんな疾患にも対応しており、医師としても幅広い体験ができるのが魅力です。前任の藤井部長や玉垣部長が築いてきた信頼関係のもと、他科との連携やチーム医療の体制もしっかりとできており、万が一の合併症が起こったときなども、迅速に的確な対応ができるので、安心して治療に臨めます。また、一生かけておつきあいたいような慢性疾患も多いので、地域のかかりつけ医の先生とも連携をとりながら、患者さんにとってベストの治療を提供できるよう尽くしていきたいと思っています。そのためには、患者さんが話しやすい環境を提供し、しっかりと本音を汲み取って寄り添うことも医師の大切な仕事。治療法や薬など、めまぐるしく進化していくため常に学び続けることが欠かせませんが、知識を深め技術を高めることはもちろん、一人の人間として信頼される、顔を見るとほっとしていただけるような医師でありたいと願っています。幸い当院は尊敬できるスタッフに恵まれ、その意味でも本当に学ぶことが多く、快く日々の診療に向き合うことができています。これからもおだやかに、辛い闘病の間にも和やかな気持ちになっていただけるように、患者さんに接していきたいです。



STAFF

戸田 詩織 (とだ しおり) 医長

専門分野/呼吸器全般
資格/日本専門医機構認定内科専門医

永井 貴彬 (ながい たかあき) 医長

専門分野/呼吸器全般

青原 大介 (あおはら だいすけ) 医長

専門分野/呼吸器全般

《専門外来》

睡眠時無呼吸症候群 (SAS) 外来 毎週水曜
非常勤・仲岡裕右医師が担当

転倒予防指導士が解説！
転倒予防について学ぼう①

加齢にしたがって、住み慣れた自宅にいてもふとしたことで転倒してしまうことがあります。今回より転倒予防指導士が転倒予防についてのさまざまな情報をご紹介します。

転倒には「定義」があります

まずは理論的なお話から。日本転倒予防学会では、以下の定義が共有されています。

「Gibson の転倒の定義」

※1987年に「高齢者の転倒予防に関する Kellogg 国際ワークグループ」より発表
他人による外力、意識消失、脳卒中などにより突然発症した麻痺、てんかん発作によることなく、不注意によって、人が同一平面あるいはより低い平面へ倒れること。

不注意とは

意図せずに内的要因（身体や認知機能の問題）、外的要因（環境の問題）を原因として起こるもの。

くたとえば、こんな事例>

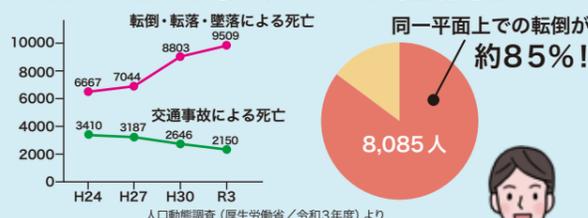
- ・ **内的要因**
足を上げているつもりが実際には上がっておらず、自宅内の平らな床でつまづいてころぶ。
- ・ **外的要因**
自宅内にある敷居の段差でつまづいてころぶ。



ご存知ですか？転倒の真実

いまや交通事故死よりはるかに多い転倒死
転倒事故は、年々増加傾向にあります。年齢を重ねるほど発生しやすい上、大けがにつながりやすくなっていきます。転倒が原因で介護が必要な状態になることや、死に至ることも少なくありません。
令和3年度の人口動態調査（厚生労働省）によると、65歳以上の転倒・転落・墜落による死者数は9,509人で、交通事故の4倍以上です。特に同一平面上での転倒による死者数は8,085人で8割以上を占めています。

65歳以上の不慮の事故による死因別死亡数



転倒の怖さ、わかっていただけたでしょうか。次回からは転倒の予防のために、大切なことをお話してまいります。

※当院では外来リハビリテーションは受け付けておりません。



10月はピンクリボン月間です

毎年10月1日から31日までの1か月間は乳がん啓発のための「ピンクリボン月間」。世界中で「プレスト・アウェアネス」、すなわち乳がんの正しい知識の普及と乳がん検診の受診による早期発見・早期治療を呼びかけています。

プレスト・アウェアネス (Breast Awareness) は、「乳房を意識する生活習慣」です。

乳がんの早期発見・早期治療につなげていきましょう。まだ乳がん検診がお済みでない方は、乳がん検診のご予約を！

マンモグラフィ検査のすすめ

当院は乳がん検診取扱医療機関です。ぜひ、ご活用ください。

毎週水曜日が「大阪市乳がん検診」の受託検診日です。

※あらかじめ、当院の窓口で検診の申し込みが必要です。

対象年齢：受診日現在 40歳以上の女性大阪市民

受診回数：2年に1回

受診利用金：1,500円

実施日：毎週水曜日

詳しくは大阪市のホームページをご確認ください。

【問い合わせ】大阪鉄道病院 06-6628-2221（代表）

「プレスト・アウェアネス」4つのポイント

- 1) **自分の乳房の状態を知る**
自分の乳房をセルフチェックすることを習慣にすることで、異常があればすぐに気がつくことができます。
- 2) **乳房の変化に気をつける**
乳房にしこりはないか / 乳頭からの分泌物はないか / 皮膚のただれなどはないか / 皮膚のへこみやくぼみ、ひきつれはないか
- 3) **変化に気づいたらすぐ医師に相談する**
少しでも気になる点があれば、検診を待たずに専門の医療機関を受診しましょう。
- 4) **40歳になったら2年に1回乳がん検診を受ける**
少なくとも2年に1回は検診を受けるようにしましょう。



ほっぼニュース

ご報告 防火・防災訓練を行いました

2024年7月12日、阿倍野消防署との合同による防火・防災訓練を実施いたしました。消防訓練の体験を通して、あらためて設備の機能や取り扱い方法、素早い初期対応や避難手順を再確認することができました。このような訓練を継続的に行うことで、いざという時に患者さんの「安心と安全」を守ることができるよう、職員一同しっかりと準備をまいります。



看護部より

4階病棟のご紹介

4階病棟は、「外科」「呼吸器外科」「泌尿器科」「眼科」「歯科」の急性期混合病棟です。患者さんが安心して入院生活を過ごせるように、看護師、医師、理学療法士や作業療法士、栄養士、薬剤師など多職種によるチーム連携を行っています。

患者さんの多くは手術や化学療法の目的で入院されます。看護部の理念である「温かい心で信頼される看護の提供」を合言葉に、不安などが少しでも軽減できるよう、患者さんの気持ちに寄り添うことを大切に日々がんばっています。

またスタッフのワークライフバランスを心がけ、みんなが生き活きと働ける職場づくりを目指しています。



4階病棟のイチオシは
元気！イキイキ！やる気！



医師とのカンファレンスを開催し、オペ予定の患者さんの情報共有を行っています。